

3. 英語教育も早ければ早いほどいい

語学ではなく「音」として認識する幼児

英語の学習ではどうでしょうか。とくに私たち日本人は、地理的に海に囲まれた島国でもあり、語学が不得意といわれています。残念ながら中学校3年、高校3年の計6年間学んでもほとんどの人が英語で日常会話ができないありさまです。こんなに難しい英語を幼児は覚えることができるのでしょうか。それは、幼児たちが、日本に生まれれば日本語を、アメリカに生まれれば英語を、中国に生まれれば中国語をほんの数年で話せるようになることからわかります。幼児たちはいとも簡単に母親や父親の言葉を覚えてしまうのです。私たち大人が外国語を習うのは本当に大変ですが、幼児期に学ぶのは簡単なのです。英語など語学は幼児にとっては音楽を聴くのと同じなのです。

アメリカに行ったある家族の話です。その家庭には2人の娘さんがいましたが、4才離れた下の娘さんのほうが英語が上手になったそうです。

長女が6才くらいの時から英会話のテープを食事の時間や寝る前に毎日のようにかけていたそうです。アメリカに行ってからすぐに学校にあがる年令でもあったため、テープを聞かせたり、英会話も習いました。

次女はまだ2才なので、ご両親はそんなに英語教育をしようなどと意識してしていませんでした。長女の横で遊びながら英会話のテープを聞いていただけでした。ところが、アメリカに来てから英語を話すのが、一生懸命がんばった長女より早かったというのです。英語もやはりなるべく0才に近いほうが覚えやすいのです。幼児には英語は難しい「語学」としてではなく「音」として入っていくのです。英語学習は0才に近いほど、早く始めるほど効果的なのです。

◎ストーナー夫人は自分の子どもが8カ国語をなんの混乱もなく話せるようになったと報告していますが、実は16カ国語でも可能だったろうともおっしゃっています。

